

WHO'S WHO 活動報告(2021年9月~2023年2月)

私たち LINE プログラムチームは、2021 年秋から活動しています。現在、4 人のメンバーで活発に LINE 交換を行っています。集まりは月一回で、感染状況で中止したほかは近隣の博物館や美術館等に出かけ、社会科見学？を楽しんでいます。尚、グループの名前を SHOWA・G9 から WHO'S WHO に変更しました。

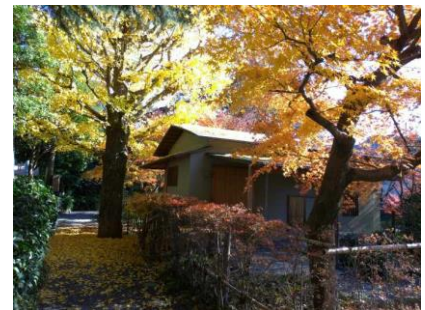
2021 年 9 月 ふるさと文化館（思い出の豊島園、今後の方向性について話し合い）



話し合いの後、「思い出の豊島園」の企画展を見ました。回転木馬、花火大会、プールなどの写真を見て、思い出に話が弾みました。

11 月 向山庭園（紅葉観賞）練馬白山神社

小春日和というのでしょうか、天気が良くて暖かく、いつまでも座って庭を見ていたいと思いました。帰りは白山神社に寄って、国の天然記念物の大櫓にパワーをいただきました。



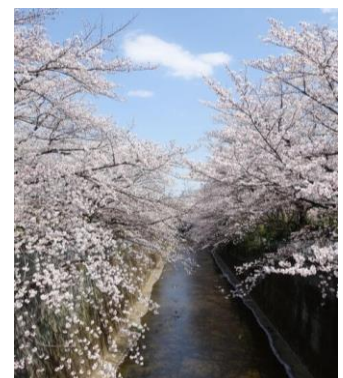
12 月 古代オリエンタル博物館(さわって学ぶ古代オリエントの時代、北イラクのマイノリティを訪ねて)



古代オリエント文明は、高校の世界史で学んで以来と思う方がおられるのではないでしょうか。タッチパネル操作で、人類の起源からシルクロードやイスラームの誕生など、180万年前から紀元後650年まで悠久の歴史に触れることができました。メンバーさんの一人は、「歴史オタクの私は前から行きたかったところです。最高に楽しい一日となりました」と満足そうでした。

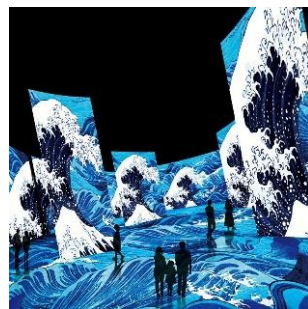
2022年 3月 石神井川沿いの桜

石神井公園駅から稲荷神社に寄って練馬高野台まで歩きました。石神井川の桜はちょっと早かったですが、見事な枝ぶりに驚きました。桜以外にもこぶしなど春の花がきれでした。後日、メンバーさんの一人は、満開の桜を見に行ったそうです。



4月 ところざわサクラタウン

角川武蔵野ミュージアム(本棚劇場、浮世絵劇場など) チームラボ (どんぐりの森の呼応する生命)



マンホールが、暗くなるとライトアップ

隈研吾氏デザイン監修、岩のオブジェを思わせる建物が印象的でした。本棚劇場は、周囲を床から天井まで高さ 8 メートルの本棚で囲われ圧巻でした。浮世絵劇場は、巨大な映像と音の空間でハンモックに座り鑑賞しました。本格的なプロジェクションマッピングは初めてで満足でしたが、時間があつたらゆっくり本を見たかったです。薄暗くなるのを待って、樹林パークのチームラボを見て帰って来ました。



5月 東京富士美術館

旅路の風景(北斎、広重、吉田博、川瀬巴水)、ユージン・スミス展
西洋絵画(ルネサンスから 20 世紀まで)



美術館は、大きな木々に囲まれた素晴らしい環境に建っていました。旅路の風景は北斎の富嶽三十六景の「神奈川沖浪裏」など、なじみの版画絵が多くありました。また、ユージン・スミスは戦争や水俣病などフォトジャーナリストとして有名、黒と白のメリハリのある写真が印象的でした。

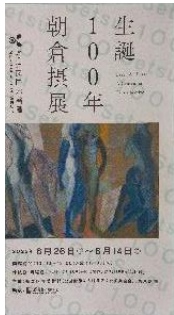
6月 帝釈天 山本亭 葛飾柴又寅さん記念館 矢切の渡し



帝釈天の別名は
題経寺、彫刻の
寺として有名

帝釈天の彫刻はとても見事で、お寺全体がガラスで覆われており彫刻を保護しています。山本亭は、外国人による日本庭園ランキングで上位となっています。矢切の渡しでは、川面の風が心地よく歌謡曲の「矢切の渡し」を口ずさみたくなりました。寅さん記念館では映画の撮影セットが、レトロ気分を感じます。帰りに寅さんの映画撮影に使われたお団子屋さんに寄って、草団子とコーヒーをいただきました。

7月 練馬区立美術館 生誕 100 年朝倉摂展（日本画、舞台芸術、本の挿絵など）



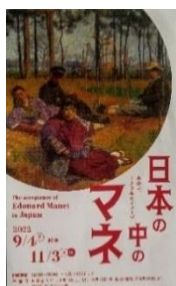
朝倉摂に関する予備知識は、あまり持ち合わせていませんでした。温かみを感じる絵から社会問題などを取り上げ、作風が変わっていく日本画を鑑賞しました。絵本や小説の挿絵、舞台装置の展示などを見て多才さを感じ、才能と努力に触れました。蜷川ハムレットの舞台模型では舞台は総合芸術だと思いました。また、松本清張「砂の器」の新聞連載の挿絵を描いていたことは意外でした。

8月 練馬文化ホール 第30回平和祈念コンサート



戦争体験の講演と、素敵なピアノ演奏を聴きました。サンサーンスの「動物の謝肉祭」など親しみのある曲が多く、楽しい時を過ごしました。

9月 練馬区立美術館 日本の中のマネ展(エドゥアール・マネ、石井柏亭や福田美蘭など)



エドゥアール・マネの絵画と、影響を受けたとみられる日本の画家の作品が数多く展示されていました。

絵の横の解説パネルに「オマージュ」という言葉が多用されており、言葉の意味について調べ、後日 LINE で意見交換しました。

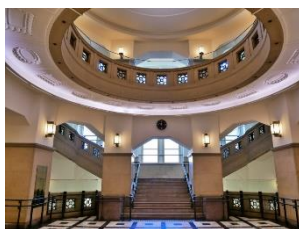
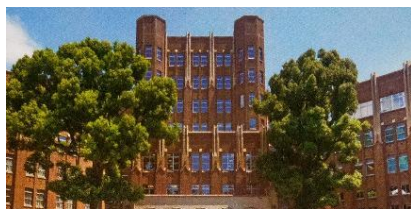
10月 野球殿堂博物館



2022年は野球伝来150周年、1872年外国人教師により伝えられたそうです。博物館では、世界の野球の始まりから日本の歴史、甲子園大会の始まりや日本のプロ野球誕生、戦後の復興、オリンピック正式種目となったことやアメリカでの日本選手の活躍が詳しく展示されています。功労者の肖像レリーフがずらりと並んだホールは圧巻で、昔テレビ中継で見た選手の活躍を思い出しました。後日、殿堂入りはどのように決まるのか、ネットで調べました。

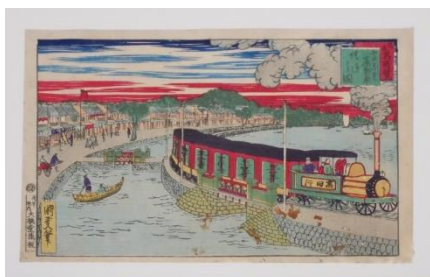
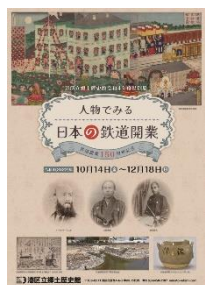
11月 港区立郷土歴史館(旧公衆衛生院)

鉄道開業 150 周年 人物で見る日本の鉄道開業



港区立郷土歴史館は、1938年に建てられたゴシック調の貴重な建物です。歴史館として2018年に開館しました。

高輪ゲートウェイ駅周囲の再開発で発掘された高輪築堤のジオラマや、当時の錦絵からも1872年の鉄道開通の様子がわかります。岩倉具視や大隈重信、伊藤博文ら政治家とエドモンド・モレルなどの技術者の尽力が紹介されていました。改めて、当時の日本人の意欲、知識、技術などに感心しました。前庭に立派な桜の木があります。職員さんに「都心の隠れたお花見スポットだよ」と教えてられ、「春にまた来たい！」と思いました。



12月 日本銀行本店 風の博物館



お土産に使われなくなったお札の屑をいただきました



風の博物館は、おそらく世界でここだけといわれています。江戸風から世界の風、ミニチュア風、サイズや形の違うさまざまな風が展示されており、武者や歌舞伎役者を描いた風は見事で芸術品でした。

日本銀行本店本館は辰野金吾による国家的近代建築で、頑丈さと壮健さを感じました。特に、地下金庫の構造や建物の壁や床の構造(床をガラス越しに見学できる場所)より、日銀ならではのと思いました。1890年に着工し9年かかったそうで、明治時代にこのような工事を驚きでした。昔の現金輸送車「マニ車」が展示されていました。今の輸送方法は勿論、極秘です!!

2023年1月 愛宕神社 NHK 放送博物館 青松寺



今年はテレビ放送開始 70 周年、昔のテレビカメラの大きさに驚きその進化に感嘆しました。子供時分のテレビ受像機や番組など、懐かしく思います。時に NHK のテレビ放送で「JOAK」ということばを耳にします。これはコールサインといい、各放送や無線局に割り当てられているそうです。

放送博物館の前後で愛宕神社と青松寺に寄りました。青松寺は松の枝ぶりが見事でしたが、高層ビルに囲まれ「さすがに都心のお寺」と、思いました。愛宕神社では86段の出世階段を上りました。若い時に上っていたら、人生が変わっていたかしら？

2月 羽根木公園(梅鑑賞) 豪徳寺



私たち普段の行いが良かったのか、朝は曇っていた空が出かける頃は青空になりました。

羽根木公園は60品種650本の梅があり、満開でよい香りがします。ちょうど梅まつりが3年ぶりに開催中、和太鼓や日本舞踊など様々なイベントが行われ、こちらも楽しませてもらいました。

帰りに井伊家の菩提寺である豪徳寺に寄りました。井伊直弼のお墓が有名ですが、招き猫(招福猫児)も有名で、大小たくさんの招き猫が奉納されています。松や四季それぞれの立派な木々も多く歴史を感じました。

